

# 将来の交通像を実現するための新たな基本方針（案）

## 現行プランの基本方針

多核連携型の都市構造を支える交通戦略

## 新たな将来像（キーワード）

- ・ 厳しい財政状況を踏まえ、地域等に応じてメリハリを付けた施策展開
- ・ 公共交通の利便性向上と再構築（需要やニーズに応じた交通手段の役割分担と連携強化）
- ・ メリハリを付けた道路整備と維持管理

## 新たな基本方針（案）

### 本市の都市構造を支え、便利で利用される交通の充実

- ① 地域のニーズや需要に応じた公共交通サービス確保と利用促進
  - ・ 各区のニーズに応じた公共交通サービスを確保し、過度な財政負担なくそのサービスを維持するための利用促進を図る。
- ② 鉄道・バス・タクシー等の交通手段間の役割分担と結節強化
  - ・ 鉄道・バス・タクシー等の役割分担を図ることにより、運行頻度の増加や効率性向上を検討するとともに、端末交通として自転車・自家用車を含めた結節強化を図る。
- ③ 災害に強く、健全な社会活動や渋滞緩和等に必要な道路の整備
  - ・ 自動車交通の適正な誘導や災害・渋滞対策となる道路整備を推進する。
- ④ 地域のまちなかへの居住・施設立地誘導との連携
  - ・ 利便性の高い公共交通サービスの享受と利用促進の観点から、地域のまちなかへの居住・施設立地誘導との連携を図る。

## 考えられる施策（例）

- ・ 環状道路ネットワークの強化
  - ・ 都心部や渋滞交差点の処理能力向上
  - ・ 鉄道駅のその地区に応じた駅利用環境の整備
  - ・ 各地域と都心を結ぶ路線バスのサービス改善
- など

## 現行プランの見直し方針（案）

### ■「多核連携型の都市構造を支える交通戦略」

各地域が育んできた個性や特色を活かしながら、都市全体として健全な社会経済活動を推進するためには、国内外の交流や地域間の連携を支える交通基盤整備をさらに充実させる必要があります。

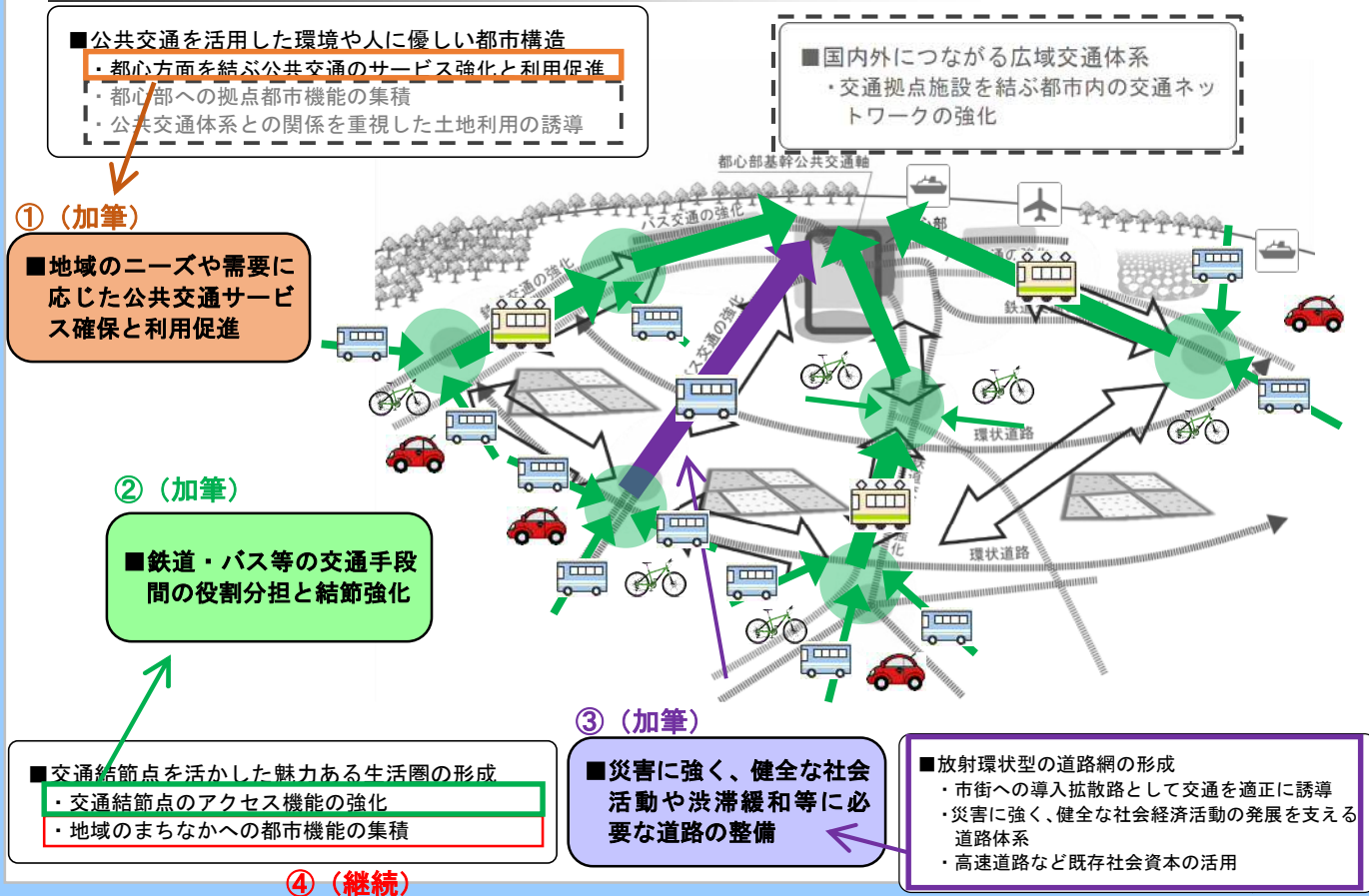
また、市民の多様な移動ニーズに応え、環境負荷の少ない豊かな地域社会を構築するためには、自動車への過度な依存を見直し、公共交通の利用促進や交通施策と連動した土地利用を誘導する取組みが重要です。 **④に対応**

本市では、放射方向に伸びる国道バイパスを横断的に結ぶ放射環状型の道路網を構築するとともに、都心方向を結ぶ既存公共交通機関の利便性向上を図ります。

さらに、各地域（区）における交通結節点の接続機能を強化することにより、「都心にいきやすく、各地域が互いに連携しあう都市構造」の実現を目指します。

- 【加筆】
- ①：地域のニーズや需要に応じた公共交通サービスと利用促進
  - ②：鉄道・バス等の交通手段間の役割分担と結節強化
  - ③：公共交通サービス向上や渋滞緩和等に必要な道路の整備

### 目指すべき方向性



# 将来の交通像を実現するための新たな基本方針（案）

## 現行プランの基本方針

地域の快適な暮らしを支える交通戦略

## 新たな将来像（キーワード）

- 自家用車を持たない高齢者や子育て世代等が安心して移動可能
- 公共交通の利便性向上と再構築（需要やニーズに応じた交通手段の役割分担と連携強化）
- 自家用車から公共交通への転換促進による健康増進、環境負荷の軽減
- 歩いて暮らせるまちづくりの推進
- 厳しい財政状況を踏まえ、地域等に応じてメリハリを付けた施策展開

## 新たな基本方針（案）

### 地域で創り、支える地域のための交通を確保維持・強化

#### ①：地域のまちづくりと連携した区内公共交通網の形成

・公共交通は区内の生活拠点内や拠点間を結ぶなど、地域のまちづくりと連携して形成する。

#### ②：交通弱者等のニーズや需要に応じた交通手段の役割分担

・交通弱者等の移動ニーズや需要に応じて、乗合タクシーや徒歩・自転車等を含めた適切な交通手段を活用する。

#### ③：地域主導による計画や運営の推進

・地域のニーズに応じた交通サービスを効率的に提供するため、自治会等の地域主導による計画や運営を推進する。

## 考えられる施策（例）

- ・ ニーズや需要に応じた路線バスの維持・確保
  - ・ 区バスの運行改善と利用促進、住民バスの運行支援に向けた取り組み
  - ・ 乗合タクシーの活用
  - ・ 安全で快適な道路環境の整備
- など

## 現行プランの見直し方針（案）

### ■「地域の快適な暮らしを支える交通戦略」

古くから生活の拠点として重要な役割を担ってきた新津や白根、豊栄、巻などの地域では、郊外化の進展や自動車の普及などを背景に、既存商店街の衰退といったまちなかの活力の低下が指摘されるようになりました。

しかし、高齢化社会を迎え、日常における暮らしやすい生活環境を確保するためには、文化や産業など地域独自の個性を活かしながら、地域のまちなかという身近な場所に生活を支える主要なサービス機能を充実させていくことが重要です。①に対応

さらに、地域全体の交通アクセスを改善し、車を利用しない人々も生活に必要なサービスを受けられるよう移動しやすい交通環境を整備していく必要があります。

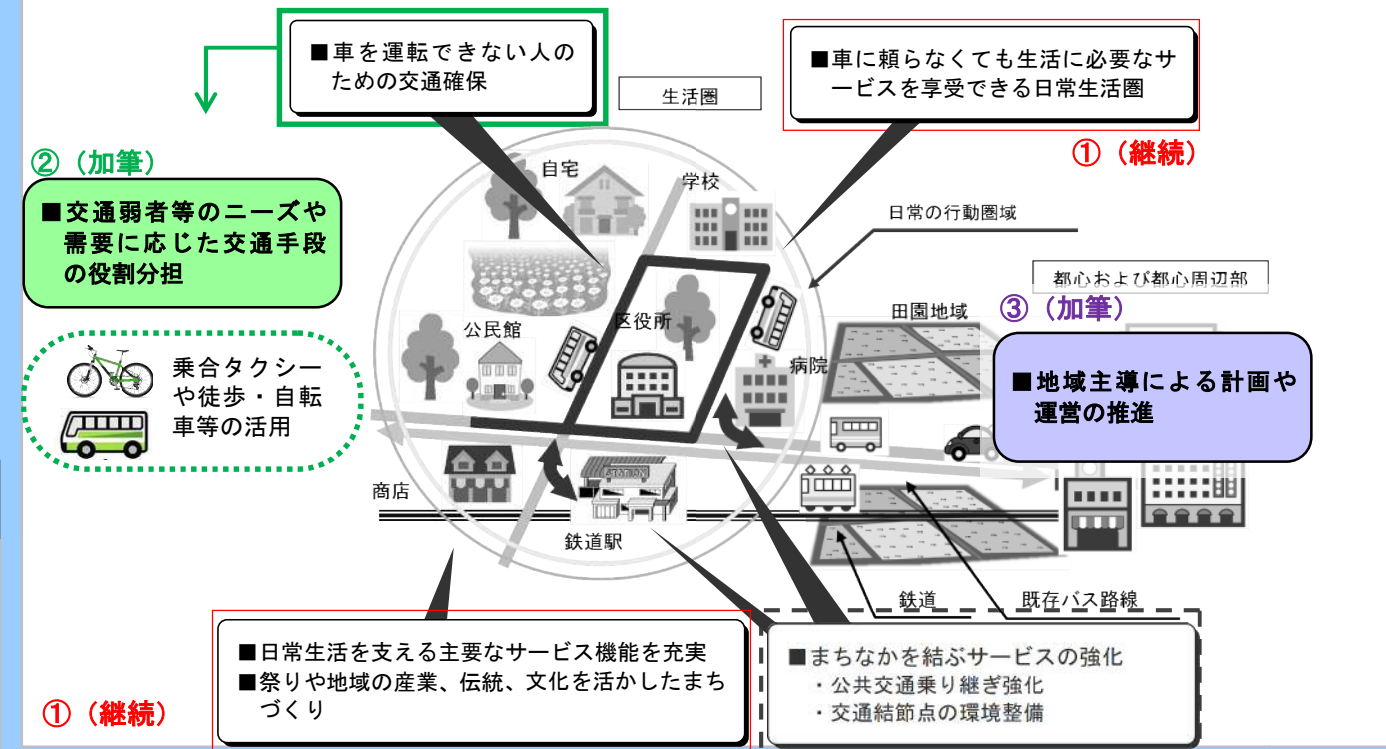
このような考えのもと、地域のまちなかでは、主要な施設に市民が徒歩や自転車です安全・快適に移動できる空間を整備するとともに、既存公共交通の活用や改善に取り組み、各地域のまちなかを結ぶ交通結節機能を強化します。

また、住民バスや区バスといった地域のニーズに応じた適正な公共交通サービスの向上を図り、生活圏の中心であるまちなかの活性化と地域間の移動手段に多様性を持たせることにより、「便利で快適に暮らすことができる地域生活圏」の実現を目指します。

【加筆】

②：交通弱者等のニーズや需要に応じた交通手段の役割分担

③：地域主導による計画や運営の推進





# 将来の交通像を実現するための新たな基本方針（案）

## 現行プランの基本方針

市街地の賑わいと都市の活力を創出する交通戦略

### 新たな将来像（キーワード）

- 自家用車以外の多様な手段（公共交通・自転車・徒歩）による回遊性向上と賑わい創出
- 新潟駅の高架化を契機とした拠点性の強化
- 基幹公共交通軸の形成や歩行者自転車空間創出に資する道路空間再構築
- 公共交通の利便性向上と再構築（需要やニーズに応じた交通手段の役割分担と連携強化）
- ユニバーサルデザインの推進（バリアフリーや多言語化）

## 新たな基本方針（案）

多様な手段（公共交通・自転車・徒歩）による回遊性向上と賑わいを創出する交通の構築

### ①：多様な手段による回遊性向上と結節強化

- 新潟駅付近連続立体交差化及び関連道路整備により、古町、万代地区と鳥屋野潟南部開発地区など新潟駅南北間の回遊性を向上する。
- 新潟駅高架に伴う交通結節点整備により、鉄道とバス、自転車、徒歩等の結節を強化する。

### ②：都心部への通過交通排除に資する道路の整備

- 都心部に流入する通過交通の排除に資する道路整備を推進する

### ③：公共交通や歩行者自転車空間創出に資する道路空間の再構築

- 都心に流入する自動車交通量抑制により余裕が生じた道路空間を活用し、公共交通や歩行者自転車通行空間を充実する。

## 考えられる施策（例）

- 基幹公共交通軸の形成に向けた取り組み
  - 都心地区を回遊できる歩行者空間ネットワークの形成
  - 都心環状道路の整備促進
  - 道路機能の分担と再構築による多様な道路空間整備の推進
- など

## 現行プランの見直し方針（案）

### ■「市街地の賑わいと都市の活力を創出する交通戦略」

#### （1）都心部のまちづくりと交通施策

古町・白山・万代・新潟駅周辺からなる都心においては、新潟市を代表する「顔」として政令市に相応しい都市機能集積と各拠点間を結ぶ基幹公共交通軸の形成を図ることで、常に活気と賑わいのある都市空間づくりを推進します。

また、陸の玄関口である新潟駅周辺地区や大型商業施設が立地する万代地区では、市民や訪れる人にとって快適でわかりやすい交通の利用環境を実現するとともに、古町周辺地区では旧小澤家住宅などの歴史的な建物の保全活用や掘割の検討など、湊町「にいがた」の街並みの再現や創出などにより、歩いて楽しいまちづくりを進めます。

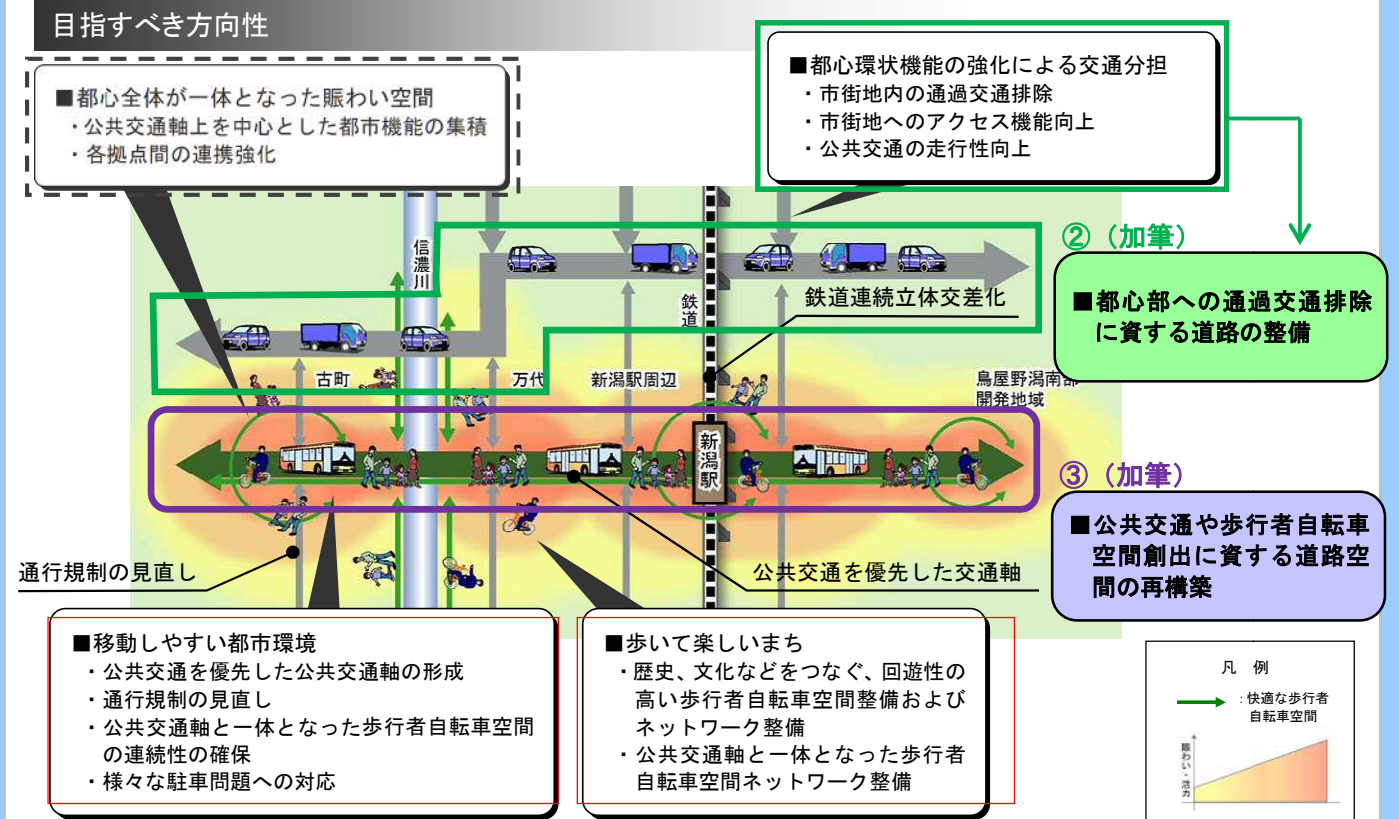
さらに、多様な世代が住める都市型住宅の供給や誘導など、都心の交通政策と連動した市街地の再整備により、居住人口の増加を図ります。

このように、若者から高齢者まで、多くの人々が集まり住む都心では、誰もが快適に移動できる交通環境として、歩行者、自転車や公共交通による移動の利便性向上に取り組みます。さらに都心の移動空間の連続性や快適性を高め、人々の多様な移動ニーズ、移動形態に対応する交通体系を構築することにより、新潟駅周辺、万代、古町地区の拠点性を連携強化し、都心の賑わいの向上を目指します。

【加筆】

②：都心部への通過交通排除に資する道路の整備

③：基幹公共交通軸の形成や歩行者自転車空間創出に資する道路空間の再構築



①（継続）

①（継続）

# 将来の交通像を実現するための新たな基本方針（案）

## 現行プランの基本方針

市街地の賑わいと都市の活力を創出する交通戦略

## 新たな将来像（キーワード）

- ・ 広域交通と連携した交流人口の拡大
- ・ 土地利用と連携した基幹公共交通軸の形成
- ・ 基幹公共交通軸、自転車歩行者空間創出に資する道路空間の再構築
- ・ 新潟駅の高架化を契機とした拠点性の強化

## 新たな基本方針（案）

### 基幹公共交通軸の形成と広域交通が連携した交通の推進

#### ① 土地利用と連携した基幹公共交通軸の形成

- ・ 都市機能誘導政策と連携し、基幹公共交通軸を形成する。

#### ② 広域交通と2次交通が連携した主要拠点間のアクセス強化

- ・ 広域交通拠点である新潟空港、新潟駅、新潟港と、都心部及び基幹公共交通軸沿線主要拠点のアクセスを2次交通となるバス等の連携により、強化する。

## 考えられる施策（例）

- ・ 拠点への公共交通アクセス性改善
- ・ 広域交通の強化
- ・ バスの定時性・走行性の向上に向けた取り組み
- ・ 基幹公共交通軸の形成に向けた取り組み【再掲】
- ・ 都心環状道路の整備促進【再掲】

など

## 現行プランの見直し方針（案）

### ■「市街地の賑わいと都市の活力を創出する交通戦略」

#### （2）都心および都心周辺部のまちづくりと交通施策

都心周辺部には、都心と近接する自然環境を活かした文化・交流・医療などの機能が集積する鳥屋野潟南部開発地区、日本海側の国際的な交通拠点である新潟港と新潟空港、国の行政施設と県庁を核とした広域的な行政拠点となる新光町・美咲町地区等の複数の都市拠点を擁しています。

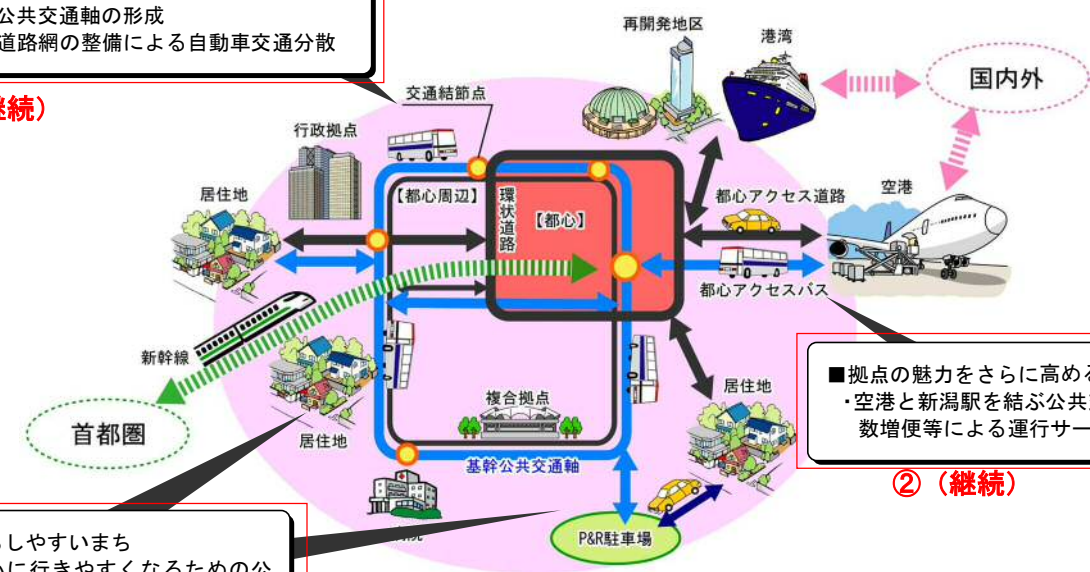
本市では都心の強化と同時に、これら都心と性格の異なる拠点の整備と機能集積を図り、都心と各拠点間の交通アクセスを強化・接続することによって、都心及び都心周辺部の魅力をより一段と高め、新潟の活力を創出します。 ②に対応 ①に対応

さらに、住宅地においては、良好な生活環境の形成と保全を図るとともに、利用者のニーズに着目した公共交通のサービス向上など公共交通と自動車のバランスに配慮した交通への取組みを推進します。

### 目指すべき方向性

- 拠点および都心の連携を強化する交通体系
  - ・ 基幹公共交通軸の形成
  - ・ 環状道路網の整備による自動車交通分散

#### ①（継続）



- 拠点の魅力をさらに高める交通体系
  - ・ 空港と新潟駅を結ぶ公共交通の運行本数増便等による運行サービスの改善

#### ②（継続）

- 暮らしやすいまち
  - ・ 都心に行きやすくなるための公共交通の確保と利便性の向上

#### ①（継続）



# 将来の交通像を実現するための新たな基本方針（案）

## 現行プランの基本方針

地域や関係者が一丸となって取り組む交通戦略

## 新たな将来像（キーワード）

- 自家用車から公共交通への転換促進による健康増進、環境負荷の軽減
- ユニバーサルデザインの推進（バリアフリーや多言語化）
- 新技術等の活用も視野（シェアサイクル、カーシェア、自動運転等）
- 厳しい財政状況を踏まえ、地域等に応じてメリハリを付けた施策展開

## 新たな基本方針（案）

みんなで創り上げるだれもが利用しやすい交通の実現

### ① 公共交通等の利用促進に向けた情報提供や意識啓発の強化

・公共交通や自転車の利用促進に向け、サービス等に関する情報提供や意識啓発を強化する。

### ② ユニバーサルデザインの推進

・高齢化対応や交流人口の拡大に向け、バリアフリー化や多言語案内などのユニバーサルデザインを推進する。

### ③ 地域主導による計画や運営の推進【再掲】

・地域のニーズに応じた交通サービスを効率的に提供するため、自治会等の地域主導による計画や運営を推進する。

### ④ 民間活力による新技術等の導入促進

・厳しい財政状況下において効率的に交通課題を解決するため、民間活力の導入を促進する

## 考えられる施策（例）

- ・関係機関者からなる推進体制づくり
  - ・環境や公共交通に関する意識啓発
  - ・モビリティ・マネジメントの推進
- など

## 現行プランの見直し方針（案）

### ■「地域や関係者が一丸となって取り組む交通戦略」

これからの交通施策は、渋滞緩和・事故削減を目的とした道路整備だけでなく、歩行者・自転車、公共交通をはじめ、景観・環境やにぎわい、防災など多様な道路機能に着目した取り組みが重要です。また、中心市街地活性化・地区レベルの交通環境改善に、地域の特性や市民ニーズを踏まえて、まちづくりの観点から取り組むためには、管理者・事業者・住民が共に考え協働していく必要があります。

特に、公共交通は、まちなかの賑わい創出などまちづくりにとっても重要な役割を果たしますが、一定のサービスレベルを満たしながら地域に即した運行形態を維持していくためには、利用者である住民が知恵を出し合い支えていくという意識をもつことが不可欠であり、また、公共交通を運行・運営する交通事業者への行政の関与が重要と考えます。

このように、今後は目指すべきまちづくりに向けて、住民や関係機関が互いに信頼関係を築き、意見を交換しながら、適切な役割分担のもと地域に根ざした交通体系づくりを推進します。

【加筆】

②：ユニバーサルデザインの推進

③：地域主導による計画や運営の推進

④：民間活力による新技術等の導入促進

●地域・関係者が一丸となって取り組み体制イメージ - 公民協働による施策の展開 -

